

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.95 2022年10月10日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369  
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

## 第24回 文化の仲間定期総会

# コロナ禍のため行事がほとんどできなかった

事務局長 山木 健介

2022年9月11日(日)に第24回定期総会をスペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で開催しました。参加者は17名でした。

コロナ禍でここ1年間に出来た行事は『音楽の「根」を掘る 安達元彦』本の第2回茶話会を行いました。その他には毎月の世話人会と会報93号と94号の発行、劇団第95回公演(「高瀬舟」「濯ぎ川」と第8回川崎郷土・市民劇(お〜い!煙突男よ一天空百三十尺の風一)の手伝いをしました。

総会は橋本教善さんの議長で行いましたが、コロナ禍で行事がほとんど出来なかったのも、総括反省の総会にはなりません。

総会議案の活動方針に「地域の子供向けやお年寄り向けの催し物を企画していきます」とあるが、若者向けが出来ないかとの意見が出されました。

子供向け企画をすれば父母や祖父母も一緒に来るという発想で、子供向け「お正月お楽しみ会」を行ってきました。コロナで2021年と2022年は開催していませんが、若者を含めて地域の活性化の文化活動は引き続き検討していきます。

また、コロナ禍ではありますが、工夫をしながら、少しずつ活動を取り戻していくことにしました。

会報が現在94号まで来ていますが、100号になりましたら51号から100号までの合冊版を発行するために、特別会計を作って積立をします。(すでに発行した第1号から第50号の合冊版をお持ちでない会員は連絡をいただければお送りします。)

劇団からは今年の秋に予定されている第96回公演「正直・清兵衛」と「米屋はまだ無事か」の紹介がありました。

総会の最後に、「世話人」(役員)を選任しました。世話人は全員留任ですが、今回新たに会計監査を設けました。

世話人は(敬称略)二村柊子・高橋明義・西川日女子(以上代表)山木健介・須田セツ子・橋本教善(以上事務局)川島雅博、佐藤友吉・常名孝央・藤崎秀子の10名です。

会計監査は渡辺そのこさんをお願いしました。また昨年新たに設けた顧問に小野寺晃さんが留任しました。

総会終了後に、総会記念企画として、劇団民藝の今野鶏三さんに講演していただきました。(講演は別稿)

本来であれば講演後に講師を交えて交流会を行うのですが、コロナなので、残念ながら交流会(懇親会)は、なしで散会しました。



## 機会を作って今野さんの朗読を聴いてみたい

西川 日女子

私が今野鶏三さんの紹介で劇団民藝の後援会「民藝の仲間」に入会したのは、2007年12月の「坐漁荘の人びと」の公演からですから、もうかれこれ15年になります。長いおつきあいです。私の好きな作品のひとつ「集金旅行」（井伏鱒二原作、吉永仁郎脚本）では、今野さんは、2013年9月の初演、2021年11月の再演とも、荻窪の地主、香蘭堂の役を毅然と演じられ、なかなか味わいがありました。今回はそんな舞台上の今野さんではなく、素顔の今野さんのお話を聞くことができ、とても良かったと思います。中でも私の心に残った言葉のいくつかを記してみたいと思います。

☆

昭和8年生まれ、現在89歳の今野さんは太平洋戦争のさ中に学童期を過ごし、「天皇のために死ぬ」と当たり前のように教えこまれた。しかし母は、7歳上の兄に「がんばって天皇のために死ね！」とは決して

言わなかった。

演劇の道を選んだのは、木下順二の「夕鶴」を観てから……。初舞台は1958年の劇団民藝公演「法隆寺」。その後、1965年に劇団員となり現在に至る。

演劇はお客さんがいなければ成り立たない。市民劇場など鑑賞団体がいかに大切か、私もお客さんに助けられてきた。

川崎は文化都市だと思う。川崎には、劇団民藝あり、人形劇団ひとみ座あり、京浜協同劇団あり、日本映画大学もある。ただ私は決して文化国家に生きていない。コロナ禍で演劇が苦境におちいったとき、ドイツのメルケル首相（当時）は、「文化は人間にとって大事なものだ」と国で支援した。しかし日本では、「好きでやっているんでしょ」と言われた。

今は朗読台本を作るのが生きがいだ。戦争体験者が語った話にセリフを入れて朗読台本を作った。京浜協同劇団の方の力も借りながら作った。

☆

今度、機会を作って今野さんの朗読を聴いてみたい！今野さん、これからもお元気で……。今野さんの今後のご活躍に期待しております。

（文化の仲間・世話人）

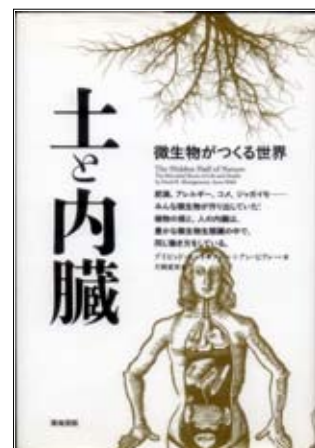


### 本の紹介

## 土と内臓——微生物がつくる世界

D・モンゴメリー＋A・ビクレー 著 片岡夏実訳 築地書館 2700円＋税

マイクロバイーム研究で明かされた人体での驚くべき微生物の働きと、土壌での微生物相の働きによる豊かな農業とガーデニング。農地と私たちの体内にすむ微生物への、医学、農学による無差別攻撃を疑い、地質学者と生物学者が、微生物研究と人間の歴史を振り返る。微生物理解によって食べ物、医療と私たち自身の体への見方が変わる本。



和田庸子さんありがとう

## お別れの会がひらかれました

城谷 護

あまりにも急逝だった和田庸子さん。彼女が倒れたのは市民劇『おーい！煙突男よ』の公演が終わってわずか10日後でした。彼女は公演大成功の余韻を残しながら私たちの前から突然去って行ったのです。(5月26日没、66歳。劇団歴44年)

私は気が付かなかったのですが、くたびれ切った彼女を見たという人がその後何人か現れました。この公演の成功のために全精力を使い果たしたのかもしれませんが。作品を書いたばかりでなく、演出助手を務めながら、切符を270枚も広げたのですから。

「和田庸子さん お別れの会」は、7月31日(日)、劇団で行われました。会場が百名しか入れないので、午前、午後の2回に分けて行いました。合計200名の予定でしたが、コロナの感染や猛暑のため、直前5日前になって「ご遠慮できる人はご協力を」と要請し、その結果50名の人が応じてくださり、結果的に参加者は150名でした。



写真撮影©長坂クニヒロ (以下同)

献奏ではピアノ＝安達元彦さん、鈴木たか子さん、ヴァイオリン＝前田みどりさんが生で演奏して下さいました。とても素敵でした。

また、次の人たちが心のこもったお別れの言葉をくださったのです。

市民劇 藤島とみ子実行委員長

演出家 杉本孝司さん(東京芸術座)

新婦人 櫻井悦子幸支部長

文化の仲間 二村終子代表

治安維持法同盟 塩田儀夫川崎支部長

皆さんに献花していただき、1階に展示された彼女の業績や遺品を見ていただきました。また、人数制限でおいでになれなかった方のお気持ちも天国の彼女に届いたことと思います。

最後に夫の護柔一さん、娘のけゑてさんから感動的なごあいさつがありました。

彼女が亡くなってから早や4ヶ月余。今でも稽古や会議の席に、あの興奮したと言うか、エネルギーッシュな彼女がいるような気がしてなりません。彼女は自分も頑張るけど他人にも頑張ることを求めました。劇団では、運営委員、財政部長として、劇団を常にリードしてきました。

そして何よりも創作劇を生み出して劇団の存在価値を高めた功績は大きいのです。

彼女の主な作品を挙げると—————

- (1) 『ミスター・チムニー！天空百三十尺の男』(2006～08年。川崎、横浜、東京、茅ヶ崎などで合計22回上演、演出＝杉本孝司)
- (2) 『黒と白のピエタ』(2010年。演出＝杉本孝司)
- (3) 『人のあかし』(2012年。演出＝藤井康雄)
- (4) 『おりん—姥捨て異聞』を脚色、演出、音楽＝安達元彦。(2018年)
- (5) 川崎郷土・市民劇『おーい！煙突男よ—天空百三十尺の風』(2022年。演出＝杉本孝司。観客2,433人)

本人はもちろん悔しかったに違いありません。しかし、彼女に代わる人はいません。残ったわれわれが頑張っていくしかありません。

これまで彼女と劇団を支えてくださった多くの皆さん、文化の仲間の皆さん、これからもどうぞよろしくお祈りします。



会員紹介 第2回——藤井厚さん

# 付き合いにくくはない飲み友達

文化の仲間事務局長 山木 健介

今回ご紹介するのは藤井厚さんです。藤井さんは世の中を良くするために色々な活動をされているようです。元横浜市の職員で、労働組合活動としては横浜地区労の役員や横浜地域労組の委員長をされました。私

\* \* \* \* \*

## 藤井厚さんによる自己紹介

山木さんから頂いた他己紹介で充分なのに、「今更、自己紹介をしなければならないとは」と困惑し、戸惑っている。

何時頃からか、映画にはまる様になっていた。ドキュメント映画が好きです。

最近、寿郎社発行の書籍にはまり、石純姫著「朝鮮人とアイヌ民族の歴史的つながり 帝国の先住民・植民地支配の重層性」や小川隆吉著「おれのウチャシクマ 昔語り」なる本を読み、強制連行や徴用された朝鮮人が北海道やサハリンの炭坑や鉱山坑、そして軍需工場に多くいたことを知り、劣悪な労働環境で貧弱な食住に耐えかねて、脱走した朝鮮人をアイヌのコタンが救い、貧しきコタンとの深い関りを考えざるを得なかったから、東中野まで行って「チロンヌプカムイイヨマンテ」なる映画を観てきた。

また、ロシアのウクライナ侵略戦争事件に関連して上映された「親愛なる同志たちへ」を新宿まで行って観てきました。

この映画は、ソ連時代の1962年にロシア南部のコサックゆかりの影響あったノヴォチェルカスクで



との付き合いは、横浜地区労の役員仲間として出会い、コロナ禍の前に何年間か横浜地区労仲間と旅行にご一緒しました。二人で飲みに行ったこともあるので、付き合いにくくはない飲み友達というところでしょうか。

起こった工場労働者弾圧、物価高に喘ぐ市民制裁の銃撃事件を題材にしています。この無差別銃撃の画像を観て、思わず戒厳令下の韓国光州事件を思い起しました。更に朝鮮戦争時に起こった米軍による避難する村民に対する無差別銃撃ノグンリ虐殺事件をも思い起した。済州島で起こった43抗争事件をも思い起す。ソ連のスターリンによる大粛清や日本兵のシベリア抑留は有名だが、これに劣らず、フルシチョフ時代にも痛ましい事件があったことを知る。真実は時の権力者によって隠される。ない者にされてしまう怖さを知る。サンフランシスコ講和条約時の下山、松川、三鷹などの国鉄がらみの事件もその類だろう。天皇の戦争責任を謝罪した声明発案を時の政権、吉田茂は阻止した。日本の政権を握る「自公」も同じことをしていないだろうか。モリカケサクラのように？

演劇は、青年運動の仲間づくりの活動の一環で、演鑑協のサークルをつくり演劇鑑賞をしていました。シナリオを読んだり、戯曲を読んだりしていたが、宮沢賢治の作品を劇化した作品にはまった。しかし中々いい演劇を観る機会は少ない。それが京浜協同劇団に結びつけた。

映画も演劇も、自己を磨くうえで、人生を振り返る点で、歴史を学ぶ上で、よい題材であり好んで観るようになりました。

歴史と言えば、77年前のアジア・太平洋戦争にも拘っている。戦闘能力のなくなった日本に対し、無差別の絨毯焼夷弾爆撃が行われた。東京、大阪、名古屋、神戸と同様に、横浜もやられた。さらに地方都市にも拡大された。そして、広島長崎の原爆投下である。そこで、「横浜の空襲を記録する会」を市民運動として立ち上げ記録する運動や資料収集をしている。二十歳代からかわり始めて今も続いている。

連載 菅野章のわがうたごえ人生—第1回

## 真っ赤に染まった東京の空が自宅から見えた

菅野 章

はじめに

格調高い「文化の仲間」紙へのこの原稿依頼が来たきっかけは、今年1月16日に劇団の稽古場で開かれた、作曲家安達元彦さんを囲んでの「労働者作曲家荒木栄を語る会」に参加し、生前の荒木栄さんにお会いしたことを語ったことでした。

今年84歳になり、視力も落ち強度のライト付きのレンズを左手に400字詰め原稿用紙に記憶をたどりながら書くことになったのです。

今回から数回にわたる連載になるそうですが、戦争体験やうたごえ活動、荒木栄さんとの出会い、組合分裂・少数派での厳しい闘い等、それなりに波瀾万丈の歩みを読んでいただければ幸いです。

生まれも育ちも横浜「ハマっ子」です

昭和13年(1938年)3月、横浜市西区藤棚町に生まれました。

物心ついたときは第二次世界大戦の最中、空襲や警戒警報におびえる毎日でした。

坂の中腹にあった家の玄関前には防火用水、裏庭の崖には2畳ほどの防空壕(当時の家族の祖母、両親、子ども4人が入る)、家の窓ガラスには割れ止めのため障子紙が張られ、部屋の電灯には灯火管制のため布で覆ってあり、枕元には防空頭巾を置いて寝ていました。

国民学校1年生のとき、家の前でろう石(石筆)でいたずら書きをして楽しんでいるとき、突然上空に飛来した米軍機(グラマン戦闘機)の機銃掃射を受け、命拾いましたが、その時の記憶では超低空で電信柱すれすれで操縦兵が見えたことを思い出します。

そして、昭和20年3月10日の東京大空襲のあの夜、真っ赤に染まった東京の空が自宅付近からも見えました。

父はこのとき「今度は横浜もやられるぞ」と判断し、その年の4月、3年生と2年生になったばかりの姉と私は祖父の出身地であった福島県郡山市の親戚に縁故疎開したのです。

そして横浜大空襲の5月29日、藤棚の家は米軍の焼夷弾の嵐の中で全焼、父は軍需工場勤務で不在、残された祖母と出産間近の母と幼い妹2人は、焼夷弾で焼け焦げた死体の間を逃げながら久保山から黄金町方面に逃げ、命は全員助かったのです。

疎開した私と姉は、石炭やコークス等の燃料店を営んでいた家で、燃料になる馬糞を拾い集めるために馬車を追って箒と塵取りを持って馬糞拾いが朝の日課でした。

そして郡山も空襲が多くなり、「横浜から預かった子どもを死なせるわけにはいかない」と店の中に掘った防空壕より安全な、歩いて30分ほどある山の小屋に「再疎開」する夜も何度かありました。

そんなとき、横浜から父が私たちを迎えに来たのは7月中旬でした。

「横浜の家は焼けてしまった。これからは郡山も危なくなる。横浜に帰ろう」

東北本線から乗り継いで上野から桜木町駅に下車、そこから見た野毛山一帯の焼け野原は、薄暮の中、人っ子一人いない一面の焼け残った電柱以外のがれきの山を見たときの光景は、今のウクライナ同様、すさまじく恐ろしく、よみがえってきます。

そして帰ってきたわが家は焼け残った遠縁の家の2階、6畳くらいの小屋に、その後生まれた4女を含めて8人が、今思えば、よくも暮らせたものだと思う、雨露をしのぐだけの生活でした。

敗戦を告げた「玉音放送」を聴いたのはこの大家のラジオでした。

西区藤棚の焼けた自宅から近かった境ノ谷の物置小屋のわが家には1年ほど住んでいました。

米軍が駐留してきたらどうなるのかという不安を近所の同級生と語り合ったことを覚えています。

戦後の食糧難、ノミやシラミに悩まされ、街頭で頭からDDTをかけられ、上陸用舟艇の米兵に向かって「ギブミーチョコレート」と叫んだことを思い出します。



2001年ベトナムにて筆者(左)

かつて大企業の労働組合専従で活躍され、現在もうたごえ運動現役の文化の仲間会員・菅野章さんに、今号から連載でご執筆いただくことになりました。(会報編集部)

劇団員による劇団員紹介 第 13 回——護柔—さんによる伊藤厚さん紹介

# こだわりの仕事人・伊藤厚さん

京浜協同劇団（運営委員長） 護柔 —



伊藤さんは、1953 年福島県いわき市生れ。兄と 2 人の姉に可愛がられた末っ子。

20 代で電気工事士としてアルジェリア・イラク・アブダビなど外国でプラント建設に関わりながら大好きな登山もしてきた。アイガー（3970m）や、アンナプルナ（8094m）を制したというツワモノ。国内では谷川岳の岩登りに数十回挑戦。年間 120 日間は山に出かけていた。氷壁から滑落して顔面骨折した大怪我も伊藤さんの自慢。（？）

31 歳で結婚。良きオヤジになったかと思えば、今度はマラソンにハマる。三浦国際市民マラソンで 28 位、池上本門寺花祭り家族健康マラソンで 6 位の記録を持つ。行動的なオヤジの家族サービスは 3 人の子ども達を連れて日曜ファミリーキャンプ。

家族だけではない。町内会の防犯防火副部長として地域を守っている。長い間消防団員として実際の火災現場にも駆けつける伊藤さん、今は副分団長として指揮にあたっている。「休みは家にいた事は無かった、身体を休める暇もなく、やりたいことをやって来た人生」と笑う。

道具屋としてこの劇団になくてはならない男。どう

して劇団に？の疑問が湧く。1998 年、第 61 回公演「コーカサスの白墨の輪（再演）」に、愛娘の実菜ちゃんが子役のミヘル役で出演することになり保護者として送り迎えするうち装置の張（チョン）さん（佐藤張二／2013 年没）の道

具作りに魅力を感じて、お手伝いしたのが縁で公演の道具製作に顔をだすようになった。いつの間にか劇団員になっていた。道具作りだけなら……と誘われるまま劇団に通ううちに演劇の面白さに引き込まれたと言う。

2020 年の「死神」の舞台で転換だけだからと〈布団廻し要員〉で舞台出演、そして昨年の「高瀬舟」では船頭の役でセリフもあったが、自分 1 人で作った「舟」を操縦することになった。「船頭さんの立ち姿がサマになってカッコ良かった」と大変評判になった。役者としての初舞台である。

今回の市民劇「お〜い！煙突男よ」では、孤軍奮闘で煙突の鉄骨ステップ部を溶接して作り上げた。初演の時にも自分が作った経験を活かし、コツコツと稽古場を鉄工所にして通い続け、見事に煙突本体にピタリと取り付けた。道具屋の伊藤厚ここに在りだ！

実は伊藤さん、身体障がい者・1 級で毎週 3 日、透析を受けている。若い時のツケが回って来たと冗談のように言うが、他にも様々な病気も乗り越えている鉄人だったが酷使した肉体はボロボロ。腎臓・糖尿病・肺炎・心筋梗塞・胃癌・パーキンソン……最近左手の筋を痛み指が伸びなくなって近々手術をするという。山での大怪我もふくめ、病気のデパート（？）そのものだ。動き続けた肉体は若い頃と同じと言うワケじゃない。結婚した実菜ちゃんが 2 人の子どもをつれてくると、【ジイジ】に変身。「孫が来るとくたびれるヨ」といつものアツシ・スマイル。嬉しそうである。



伊藤さんの仕事袋

落語劇と朗読劇の2本立て

# 初めて制作を担当します

京浜協同劇団 田中 耕一

次回公演で、初めて制作を担当することになった田中耕一です。分からないことばかりですが、よろしくお願いします。

今度の公演は大黒柱の和田庸子さんが亡くなって初めての公演となります。和田さんに心配をかけないよう頑張りたいと思います。

今秋の公演では、伊地知克介いちぢかつけい作「米屋はまだ無事か」という朗読劇を採りあげます。

そしてもう1本は古典落語「井戸の茶碗」を護柔一が脚色、「正直・清兵衛」と改題して上演することになりました。どちらも40～50分くらいの上演時間です。

## ●朗読劇「米屋はまだ無事か」

ある時、ある港町に1人の米屋がいました。その青年は都会からの移住者で、お米を通じて町の人々と心を通わせて行きます。そんな時、大きな地震が発生。そして大きな津波が彼と町の人々を襲います。そこで彼がとった行動は……。

人が生きるのに必要なものは何か。ファンタジックな物語の中にも、今日の日本に欠けている大事なことを教えてくれます。

### 【出演者】

	A組	B組
朗読者1 (放送係)	渡辺そのこ	石川房乃
朗読者2 (図書館長)	瀬谷やほこ	若菜とき子
朗読者3 (心中女)	篠崎旗江	大井かおる
朗読者4 (米屋)	村上浩史	
朗読者5 (町長)	藤井康雄	
朗読者6 (心中男)	田中耕一	

朗読者1, 2, 3はダブルキャスト 太字は客演  
●落語劇「正直・清兵衛」

ある日、屑屋の清兵衛は困窮していた浪人を助けるために自分では価値の分からない仏像を買ってしまう。それが苦勞の始まり。200文で買った仏像が300文で売ってしまう。しかもその仏像の中から50両が出てくる……。

正直者たちが見せる、人情と意地がさわやかな笑いを誘う。現代人が忘れかけた大事なものを届けてくれる人情もの落語の傑作。

### 【出演者】

清兵衛	河村はじめ
高木作左衛門	田中耕一
千代田ト斎	大谷敏行
大家	城谷護
細川の殿様 (声)	護柔一
目利き (声)	藤井康雄
良助 (声)	柳沢芳信
ト斎の娘 ダブル	川上陽菜子 福井杏
屑屋仲間 A	藤井康雄
1	篠崎旗江
2	若菜とき子
3	渡辺そのこ

太字は客演

\* \* \*

観客数は座席100のところ、コロナ禍なので6割の60名とし、10回ですから600名とします。予約制ですので皆様のご協力をお願いします。

京浜協同劇団第96回公演 神奈川県演劇フェスティバル参加作品

二本立て

## 正直・清兵衛 / 米屋はまだ無事か

◇古典落語「井戸の茶碗」より

演出 護柔一 制作 田中耕一

予約制 (前売) 3000円

会場 スペース京浜 (京浜協同劇団稽古場)

問合せ・申込先 京浜協同劇団

〒212-0052 川崎市幸区古市場 2-109

TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694

HP: <http://keihinkyoudougekidan.com/>

◇伊地知克介・作 朗読劇

公演日程	11/19 (土)	11/20 (日)	11/23 (水祝)	11/26 (土)	11/27 (日)
午前 11 時開演	○	○	○	○	○
午後 3 時開演	○	○	○	○	○

◎文化の仲間通信◎

◆禰覇美智子琉舞研究所 玉城流喜納の会

第1回おさらい会

日程 10月23日(日) 13:30 開演

会場 川崎沖縄県人会館ホール

プログラム かぎやで風・かせかけ・日傘踊り・四つ

竹・谷茶前・銭掛の花 ほか

料金 1,500円(前売)(当日2,000円)

問合せ・申込み 久手堅鮎子(TEL 090-8089-3088)

◆PLAY for JAPAN 和太鼓でつながろう!

震災復興をめざすコンサート・ファイナル

被災地の今、そして未来へ!!

日程 11月6日(日) 14:30 開演

会場 多摩市民館大ホール

料金 一般999円 学生・障がい者500円

第1部「海」そして被災地の今/海の太鼓・銚子跳ね  
込み太鼓・海のお囃子・ぶちあわせ太鼓 ほか

第2部新たな交流をめざして/虎舞い(岩手県釜石市)・海潮音(宮城県気仙沼市)・中野七頭舞(岩手県岩泉町)・すずめ踊り(宮城県仙台市)・七夕祭り囃子(岩手県陸前高田市) ほか

出演 実行委員会を構成する東京・川崎・横浜の太鼓団体  
東日本大震災から11年。この間、陸前高田、気仙沼との演奏交流を中心に様々な活動をしてきました。11年を区切りにして、東北の民俗芸能のすばらしさに思いを寄せ、新たなつながりをつくっていききたい。

問合せ 実行委員会

080-2043-8175(玉田) 090-3206-0283(山本)

◆ミュージア川崎 ホリデーアフタヌーンコンサート

○マリオ・ブルネロ J.S. バッハ無伴奏チェロ・リサイタル

11月3日(木・祝) 13:30 開演

全席指定6,000円 舞台後方3,000円

○堀米ゆず子(ヴァイオリン) & ヴァレリー・アフアナシエフ(ピアノ) デュオ・リサイタル

12月10日(土) 13:30 開演

全席指定7,000円 舞台後方3,000円

○堤剛(チェロ) & 前橋汀子(ヴァイオリン) & 藤田真央(ピアノ)

2023年1月9日(月・祝) 13:30 開演

全席指定7,000円 舞台後方3,000円

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール

問合せ・申込み 神奈川芸術協会

TEL 045-453-5080

◆劇団俳優座公演 No.351 『猫、獅子になる』

日程 11月4日(金)~13日(日)(詳細問合せ)

会場 俳優座劇場(東京都港区六本木)

作 横山拓也(iaku) / 演出 眞鍋卓嗣 / 出演 岩崎加根子・塩山誠司・清水直子・安藤みどり ほか  
料金一般5,500円 シニア(65歳以上)5,000円 学生3,850円 ハンディキャップ3,300円 全席指定  
中学時代の演劇部の発表における諍いが原因で不登校となり、50歳になつてなお実家の自室に引きこもる美夜子。世話をしてきた高齢の母の体調が芳しくなく……。8050問題に迫りながら、射貫く「現在」——。

問合せ・申込み 俳優座劇場

TEL 03-3405-4743(10:30~18:30 土日祝除く)

◆劇団埼玉 第103回公演

『ゆうれい貸屋』

日程 11月12日(土)、13日(日) 15:00 開演

会場 上尾市コミュニティセンター ホール

原作 山本周五郎「ゆうれい貸屋」 / 脚本 平石耕一 / 演出 堀越飛鳥 / 出演 初野純一・伊藤節子・中山浩充・水村照江・金子明 ほか

問合せ・申込み 劇団埼玉

TEL 050-3479-0481(留守電対応あり)

HP: <https://gekidan-saigei.jimdofree.com/>

◆劇団民藝公演 モデレート・ソプラノ

日程 12月1日(木)~10日(土)

会場 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA

作 デイヴィッド・ヘア / 訳・演出=丹野郁弓 / 出演 檜山文枝・日高里美・小杉勇二・西川明 ほか

料金 一般6,600円 夜チケット4,400円 U30 3,300円 高校生以下1,100円 全席指定(発売開始10月12日)

問合せ・申込み 劇団民藝

TEL 044-987-7711(月~土 10:00~18:00)

◆ウクライナ国立バレエ公演

ドン・キホーテ

日程 12月17日(土) 14:00 開演

会場 神奈川県民ホール大ホール

指揮 ミコラ・ジャジュラ、オレクシ・バ克蘭 / 管弦楽 ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

料金 SS席16,000円 S席15,000円 A席12,000円 B席10,000円 C席8,000円

問合せ・申込み 神奈川芸術協会

TEL 045-453-5080

■文化の仲間ギャラリー■

大谷 敏行<sup>18</sup>



絵手紙 竹間テル子

「厳選」大谷敏行の川柳塾

白いのに 黒と言えとは理不尽な  
二〇二三年九月五日『日本海新聞』掲載

経験の無い事多発 八月尽  
二〇二三年九月八日『しんぶん赤旗日曜版』掲載

大関は 引き立て役が板につき  
二〇二三年七月四日『朝日新聞』掲載

東大出 裸一貫相撲道  
二〇二二年六月三日『日本海新聞』掲載

今流行り 男子トイレのサニタリー  
国葬や 大山鳴動四分五裂  
刈る前は稲刈った後は米と言う